

尾州蟹江本所村

鈴木家文書
(三)

鈴木系拔鈔

は　じ　め　に

さきに刊行しました鈴木家文書（一・二冊）に引き続き、このたびその第三冊を発刊するのはこびとなりました。

今回の主たる文書「鈴木系抜鈔」は、鈴木家が京都東本願寺に提出した、同家の系図に抜（ぬき）がき）として添えたものの写し書（控）であり、同家において秘蔵されてきた貴重な文書の一つであります。

内容は大きく二つに分かれます。本書（一一ページ）にもある通り前半は文久壬戌二年（一八六二）当時の鈴木家当主（一一代　重声）が東本願寺側の要請に応え、中祖鈴木盛重以降三代目重治にいたる系図に添えて抜として江戸の学者黒川春村に寄託したものであります。盛重　重宗その他鈴木重幸等一族が当時織田信長と対峙していた本願寺九代目法主顕如上人を助けて奮戦したことを通し、鈴木家と深い法縁が結ばれたこと、本願寺が異例の扱いをしたことが記されております。

徳川家康が庇護して東本願寺を建立した由緒と、歴代尾張藩主と親近感を深めてきた鈴木家との間柄から当然その立場を確認した本文その後七行にまたがる添え書も、ここでは重要な意味があります。

鈴木系後鈔

鈴木盛重者，字曰四郎，九衛門，生於紀州藤白。其先穗積氏，而世居於藤白。盛重為人，有武幹，為柵長。盛重所養，長盛者，蓋姓橋楠。正儀七在之裔，而住於寒川村。盛重乃其嗣。稱楠氏，嘗以為大丈夫，宜聲威於四方也。終去紀州，轉徙三州，則同宗氏族多，因以依之。於是復改氏鈴木，而姓尚稱橋云。無歲病，沒有二子。曰重宗，曰重慶。右有傳訛。鈴木重宗者，盛重之長男，而母楠氏也。字曰五郎，兵衛，幼與盛重居。子三州，堀村時虎。